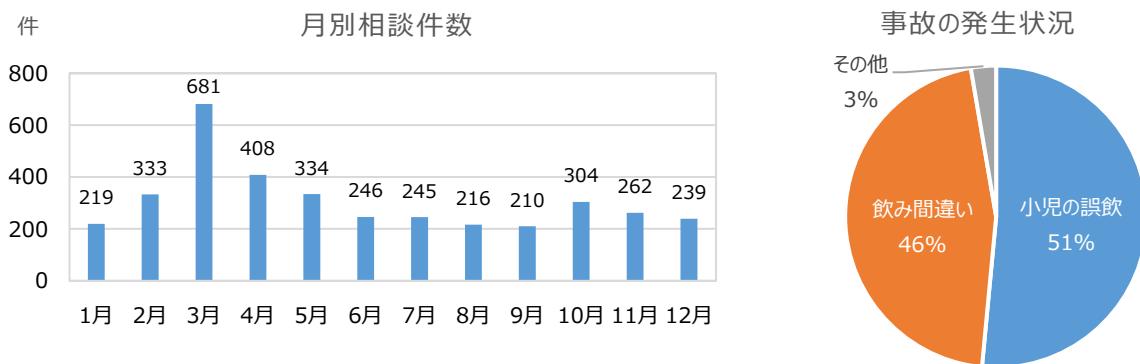


花粉症の薬の飲み間違いや子どもの誤飲に注意しましょう！

暖かくなると花粉が飛び始め、アレルギー性鼻炎や結膜炎といった花粉症の症状に、抗アレルギー薬などを使用する機会が増加します。中毒110番では、3月頃に抗アレルギー薬に関する相談が多くなります。過量摂取では、眠気、口渴(口の渴き)、嘔吐などが起こる可能性があります。

抗アレルギー薬の飲み間違い・誤飲事故（2020～2024年、n=3,697）



小児の誤飲事故では、次のような相談があります。

「親が抗アレルギー薬を服用後、机の上に薬のシートを放置した。子どもが取って薬をかじった。」

「子どもがシロップ薬の味が好きで、机に置いてあった抗アレルギー薬のボトルを取り、たくさん飲んだ。」

また、飲み間違いの事故には、次のような相談があります。

「用法・用量をよく確認せずに、1日1回の抗アレルギー薬を1日2回飲んだ。」

「母親が子どもに薬を飲ませたことを知らずに、もう一度父親が同じ薬を飲ませた。」

「親の抗アレルギー薬と子どもの薬を机の上に一緒に置いた。子どもが取り間違えて親の薬を飲んだ。」



●事故防止のため以下の点に注意しましょう。

- 小さな子どもがいる家庭では、子どもの手の届かない場所に薬を保管しましょう。また、服用後はすぐに保管場所に片付けましょう。特にシロップ薬では、子どもが持ち出して全部飲んでしまうことがあります、注意が必要です。
- 薬を飲む前に、本人の薬かどうか、1回量や1日の服用回数などの用法・用量をよく確認しましょう。子どもに薬を飲ませる前に、その日の服用状況を家族に確認するようにしましょう。
- 親やきょうだいの薬が近くにあると間違える可能性がありますので、分けて保管しましょう。

事故が発生し、医療機関を受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。

公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）

■大阪中毒110番 072-727-2499 ■つくば中毒110番 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。